

令和元年7月12日 市長定例記者会見 会見録

※数字は、一桁は全角で、二桁以上は半角で、四桁以上はカンマを入れて

【司会】

それではただ今から、市長定例記者会見を開催いたします。先ほど、ご案内しましたとおり、本日もライブで配信をしております。本日の話題は2件です。市長よろしくお願ひします。

【市長】

はい、お待たせいたしました。前回の市長記者会見で私言い忘れていたんですけれどね。そうそう、5月で転任された朝日新聞の野口記者から、直筆のはがきが、私のところにきましてね、なんだかいろんなところにはがきを書きまくっているらしいんだけど、静岡支局時代が本当に楽しかった、懐かしかったとこういうことでしたよ。誰の文面にもそんなことを手書きで、嬉しいですよ。高崎に入ってもね、そうやって静岡をずっとずっと思い出してくれているっていうのは、まあ、あの人のことだから今にまた高崎にね、慣れてきて高崎でも友達ができて、高崎が気に入るようになるんだろうけどもね、本当に静岡時代楽しかったっていう、すごい心のこもったね、ハガキをもらって嬉しかったなあと。この定例記者会見ではね、割とこう鋭いね、厳しい質問をいただいて、私もやり取りをして、緊張した部分があったけれどもでも、それってすごく嬉しいことだなあとということを、最初アイスブレイクで紹介をしたいと思います。

明日からいよいよ、総合パンフレットが出来上がりましたので手元にあると思いますけども、開港120周年、私も今日バッチをつけてまいりましたけれどもこれが始まります。もうすでに第67回の清水七夕まつりは、先週盛會に終わりました、今週末は巴川の灯ろう祭りです。そして今年特別の120周年開港祭、海フェスタを経てクライマックスフィナーレの清水みなと祭り。第71回の清水みなと祭りにつながっていきます。清水区民のみならずね、葵区駿河区あるいは、市外からもね、たくさんのお客さんが清水の夏を楽しんでもらえればいいなということ、プロモーション・PR活動を一生懸命やっていますのでぜひ皆様方のご協力もお願いしたいなというふうに思います。

それでは今日の話題に入ります。

まずは天守台に続く大発見。戦国末期の駿府のまちが姿を現す。もうこれは記者レクを済ませているのかな。令和初のうれしい大発見です。昨年10月の豊臣秀吉の天守台と金箔瓦、平成最後の発見に続き、旧青葉小学校跡地から秀吉の天守台と同じ時期に栄えた駿府のまちが、私どもの前に初めて姿を現しました。発見されたのは戦国末期の駿府城とつながる道と、道の両側に積まれた石垣です。石垣の上には塀が建ち、その塀の内側には、当時の重臣たちが武家屋敷。彼らが建てた武家屋敷があったと思われます。つまり関ヶ原の戦い以前に、家康公あるいは豊臣方の武将の中村一氏に仕える重臣たちがここに住み、駿府城と行き来をしていたわけです。もしかした

ら家康公や秀吉公もこの道を通ったかもしれません。人々が行き交う姿、まちなみを想像してみてください。どんな歴史の舞台が広がっていたのか瞬時にタイムトリップすることができます。同じような遺跡が他にも発見されているのではないかと思われるかもしれませんが、専門家によると日本全国で発見、整備されているのは江戸時代以降の城下町の跡がほとんどで、戦国時代の遺構がこのようにはっきりと出現して公開されている事例はただ一つ、福井県にある特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡しかないようであります。お手元の配布資料の右下にこの一乗谷、写真を掲載しておきましたけれども、そういう点からも今回の発見は全国的に見ても極めて重要な発見で、非常に価値が高く保存をしていくべきという評価をいただいております。旧青葉小学校跡地は、昔から城内東小学校であるとか図書館ですね、葵文庫であるとか、開発が繰り返されてきたスクラップビルドが繰り返されたところでありますけれど、もそんなに重要な遺構が未だ眠っているとはまったく想定をしておりませんでした。

現代の静岡市の街の原型ともいえる駿府の街の大発見は、まさしく同じ時代をテーマにした展示を行う歴史文化施設にとっては願ってもないチャンスです。がそれだけではなく施設を取り巻く駿府城天守台や東御門巽櫓といった実物の遺構や復元した建物を一体的に野外博物館と見立てたいわゆるフィールドミュージアムにとっても、とても追い風となる実物遺構の発見であります。今回発見された駿府の街は歴史文化施設とフィールドミュージアムをより強く結びつけ、さらに歴史文化の街の価値と魅力を高めるものと確信しています。

静岡市は今回の発見を先人達からの贈り物として、見つかったこの場所で大切に保存し、そして活用していきたいと考えております。これに伴い歴史文化施設の2021年秋の開館は少し先になる見通しであります。昨年に続く今回の大発見は歴史文化施設の開館や5大構想歴史文化のまちづくりに向けて、さらに大きな弾みとなることは間違いありません。詳細については、また定例記者会見の場で発表したいと思いますが、全国的にも重要な、今回発見された遺構と両立する歴史文化施設の新しい姿にご期待下さい。以上です。

二つ目であります。これも5大構想、健康長寿のまちの推進に関わる話題であります。タブレット端末で特定保健指導を実施します。働き盛りのあなたの健康サポート。みなさん今年、健康診断すでに受けましたか、人間ドック受けましたか。忙しさにかまけていませんか。若いからまだ大丈夫だと思いませんか。ぜひ健康管理、宜しく願いを致します。

生活瞬間病はいまや日本人の死亡原因の約6割を占めています。生活習慣病の予防はまず検診を受けて自分の身体の状態を知ることから始まります。40歳から74歳までを対象としたメタボリックシンドロームに着目した検診、これがいわゆる特定健診です。静岡市でも国民健康保険の加入者を対象に実施していますが実施率は、33.4%。まあ3人に1人しか実施していただけていないのが現実であります。そしてまあその3人に1人の特定健診を受けた方々の中から生活瞬間病のリスクが高いと診断された人を対象に、さらに保健師などが本人と直接面接をして特定保健指導と呼ばれる公共サービスを実施をしています。生活習慣病を本気で予防するためには、まず入り口として特定健診を受診すること、そして2つ目にその結果で改善の必要がある場合には特定保健指導を

受けること、そして啓発をされて真剣に自らの生活を顧みるということが健康長寿のまちづくりにとって大事な処方箋であります。

しかし一方特定健診を受けるのも 33%、そして特定保健指導を受ける方も 35.1%、対象者の 3 人に 1 人とどまっています。そして 40 代や 50 代の一番受けていただきたい世代の実施率が、まあ働き盛りなので忙しいということもちろんあると思いますが 22 から 25%前後の受診率。低いというのが現状であります。働き盛りの皆さんはまあとにかく忙しく、記者の皆さんなんてまさにその最前線だと思いますけれども、なかなか自分の健康に目を向ける時間、目を向ける時間が持てません。しかし働き盛りだからこそ健康に気を配っていただきたいという、市、行政の強い思いから、この度、どこへでも追いかけていくぞと言わんばかり、時間と場所を選ばないタブレット端末を利用した特定保健指導を、今月から導入することに決めました。これは全国の政令指定都市、初めて、初の取り組みであります。これは保健師の、静岡市役所の保健師の熱意によって、このシステムを導入したいということ、私たち三役に提言をし、そして私たちもこれを決定をしたという経緯であります。対象者はまず保健福祉センターへ出向いて保健師などと面接することが必要。従来はね、それがまあ面倒だという大きなハードルになっていました。しかしこのタブレット端末を活用することによって自宅など自分が都合の良い場所で、都合のいい時間に面接をすることができます。また保健師の立場から見ると追いかけていくと、とにかく健康に気をつけようという特定保健指導を受けるまで追いかけていくために、タブレット端末を使っていくということですね。このタブレット端末を対象者に貸し出していきますので、自分で機器の準備をすることも必要ありません。この方法であれば、今まで場所と時間の問題で特定保健指導を受けられなかった市民の皆さんにも、受けていただくことができるというわけであります。そこで早速わかりやすくみなさんに理解をしてもらうために今日はその実演をしてみたいと思います。実際に特定保健指導を行っていただくカルナヘルスサポートという企業であります。そこの保健士さん、福田さんと今日はタブレット端末つながっておりますので短い時間ではありますが私自身が特定保健指導を受けてみたいと思います。

～タブレット端末を使用し実演～

【市長】

福田さんこんにちは。

【カルナヘルスサポート】

こんにちは。

【市長】

静岡市長の田辺です。

【カルナヘルスサポート】

カルナヘルスサポートの福田と申します。よろしくお願ひします。

【静岡市長】

記者の皆さんに今私たちはとても注目されております。

【カルナヘルスサポート】

はい。よろしくお願い致します。実際に、市長は検診後の保健指導等を受けられたことはございますか。

【市長】

実は先日、先月受けたばかりあります。

【カルナヘルスサポート】

そうだったんですね。生活習慣病を予防するためには、少しでもはやい段階で生活習慣の改善を行っていくということが大切です。ひとりで行うよりも誰かのサポートを受けて取り組んでいただいたほうが、結果がでやすいかと思います。

【市長】

はい。福田さん伴走してください。

私に伴奏してください。並走してください。私とともに歩いてください。私のメタボ予備軍を治してください。

【カルナヘルスサポート】

はい。よろしくお願いします。ただダイエットをすればいいというわけではなくてですね、生活習慣を振り返って、何が必要なのか、問題なのかというところを見つめ直すきっかけにさせていただけたらと思います。

【市長】

はい。

【カルナヘルスサポート】

生活習慣の改善の中からできそうなことから、個々に合わせて取り組むことをサポートさせていただければと思います。よろしくお願い致します。

【市長】

こちらこそ。という感じで始まるわけですね。もうすこし話してたいんだけど。

【司会】

はい。このへんで。

【市長】

福田さん、静岡市職員から、これからよろしくお願ひ致します。という拍手を送りたいと思いますので聞いてください。

——拍手——

【福田さん】

よろしくお願ひ致します。精一杯サポートさせていただきたいと思います。

【市長】

はい、どうもありがとうございました。

ご関係の皆さんにもよろしくお伝へください。

～実演終了～

という感じなわけですね。これだったら受けられるでしょ。ということで、これを実行していきたいと思ひます。直接会って顔を合わせてでは指導する方からすると、なかなか厳しく指導できません。しかしこのように、画面を挟んで離れたところだからこそ、福田さんも厳しく「このままじゃダメですよ。命取りになりますよ。」ということをおっしゃっていただけると思ひうんですね。私が、特定保健指導をしてもそうなんです。市長だというと、忖度されちゃうんです。言い方も本当はもっと厳しく言いたひんだらうけれども、丁寧になって、するとあんまり危機感を持たない。それだとなかなか甘く見てしまひます。むしろ離れているリモートの形だからこそ、ズバズバと、優しい口調で厳しく言われる。するとそれで危機感を持ってもらうというの、このタブレットを導入する、ひとつの効果なのではないかな、というふうに思ひています。一人でも多くの市民の皆さんに利用していただき、特定保健指導の実施率政令指定都市ナンバーワンを目指していきたくひ。

さらに2022年には特定保健指導実施率45%、その先の目標としては国が掲げている60%を目指して、これから取り組んでまいります。特定保健指導は受けることにより、自分の体について新たな一面を知ることができます。過去の結果を見ても、特定保健指導を受けた方の約3割から4割の方が、メタボリックシンドロームから脱却し、高血圧や糖尿病などの生活習慣病の発症予防につながっている。というデータがあります。なので、特に場所や時間の問題でこれまで受けてこれなかった、40代50代の働きざかりの世代の皆さんにも、ぜひこのサービスを活用して、特定保健指導受診をしていただきたひと、今日はお願ひをいたひします。以上です。

【司会】

はい。それではただいまの発表項目について、ご質問ある方はお願ひしたいと思ひますが、ご質

問の際は社名・お名前をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

はい。まず SBS さん。

【SBS】

石垣の方ですけれども、改めて市長の言葉でこの発見についてどういうお気持ちをお感じになっているか、というのをお話いただけますでしょうか。

【市長】

追い風にしたいと思っています。

この遺構、歴史文化施設の一部に取り込んでいきたいなあ、と思っています。

なので、例えばこの歴史文化施設を訪れた方々が、この道を歩けるようになったらいいな、というふうに思っています。そして400年前にタイムスリップしたようなゲートウェイをつくって、中の室内に入ってもらって展示物を見てもらう。そんな意匠もこらせるのではないかな、というふうに今回の発見を喜んでいます。

【SBS】

ありがとうございます。

【司会】

はい。静岡朝日テレビさん。

【静岡朝日テレビ】

静岡朝日テレビの市です。同じくこの石垣などについてなんですけれども、先ほども少し話に出たと思うんですけれども、平成33年度のオープンを目指しての、この歴史文化施設の計画ですけれども、今後この計画にどんな変更が出てきそうなのか。例えばあの専門家のコメントですとかいう中で、こうした遺構を現状のまま保存するとか、文化施設の展示と共存するべきとか、計画のこの設計変更をしてでも。というような意見もあるようですけれども、そういった中で、どの程度の変更をして、どの程度、こうスケジュールの遅れなのか、変更が出てくるのか、あるいは歴史文化施設そのものを見直すというお考えはあるのかどうか、そのあたりを聞かせて頂ければと思います。

【市長】

はいわかりました。まずはこの遺構を取り込んでいきたいという作業と、しかしながらできるだけオープンが遅らせたくないという作業その両立をこれから図っていききたいなというふうに思っています。実務的には、今日は担当課長が来ておりますか。来ておるので、少し補足で答えてもらおうと思っていますけど、私の気持ちはこういうことであります。3次総の中に位置付けられた、そんな計画ですのですね、その中にやはりオープンを、供用開始というところに持っていききたいし、一方でこの遺構

というものを先ほどの質問に答えたとおり、大いに生かしたそんな意匠にしていきたいなというふう
に思っています。まだ発見されたばかりですのでね、これから専門家の方々、いろいろな知見をヒ
アリングして決めていきたいなというふうに思っております。あとは担当課長からお答えをいたしま
す。

【歴史文化課長】

歴史文化課長です。歴史文化施設の方に取り込んでいくというふうな考え方のもとに、どういう保存
をし、処理をしたら遺構が取り込めるのかというようなことの検討に入ったところです。ですので、もう
少し作業させて頂いて、改めてどれぐらいの遅れになるとかどれぐらい経費がかかるのかということ
については、発表させていただきたいというふうに考えております。

【市長】

はいどうもありがとう。

【司会】

先ほどの市長のコメントからもありましたが、また詳細が明らかになったところで記者会見という形で
対応させていただきたいと思います。

【市長】

市民の期待を高めたいと思いますので、ぜひ報道の方、とびきりお願いいたします。

【SBS】

じゃあ、あくまでも歴史文化施設を建設は進めるという前提でこれを行っていくと。それを見直す
という考えは全くないということよろしいでしょうか。

【市長】

追い風として活用していきたいという考え方です。

【SBS】

はいわかりました。

【司会】

ほかにかがでございましょうか。はいNHKさんどうぞ。

【NHK】

NHKです。タブレットの方もお尋ねしたいんですけども、タブレットってこれいくつぐらいご用意さ

れて、対象となる方って市内にどれぐらいいるのかなっていうところを踏まえた上で、(音声不明)…

【市長】

はい、これも後ほど担当課から少し実務的に答えていただきますが、あの私自身はバックキャストでね、これも事業に取りかかれということを指示してありますのでね、先ほど言ったような国の目標値 60、これはかなりストレッチ目標でありますけれども、それに近づけるために年次で区切って、いつまでに少なくとも 3 次総、2022 年までに達成できるかどうかということの評価基準にして、それができればさらにその先もこのタブレットのやり方を継続するし、できなければ効果がなかったと言ってそこで打ち切るし、まあそんな年次を区切った数値を目標設定していきたいというふうに思っています。機器がどのぐらい用意されているか等々の質問については、実務的に担当課長の方からお答えをしてください。

【健康づくり推進課長】

健康づくり推進課長です。まずタブレットですけれども、今回はですね 500 台ほど用意しております市民の皆様からのそういった規模に対しては十分応える数を用意させていただきます。そしてですね、この対象者はですね、昨年度の同じこの 6 月から 11 月までの間の実施期間を予定していますけれども、この期間で 950 人程の方がこの事業の対象者ということで考えております。それによりまして、タブレットを端末としてこの保健指導を行っていく方をですね、だいたい 1 割から 2 割ほどを見込んでおりますので、100 人前後がこのタブレットを利用して、新たに特定保健指導を受けて…(音声不明)…これによりまして全体の実施率がですね、約 38%ほどに上がるということで、現在のものよりも約 38%はぐらいは上がるということを見込んでおります。

【司会】

よろしいですか。ありがとうございます。他ににいかがでございます。はい、えーそれではですね、失礼しました、共同さん。

【共同通信】

共同通信です。昨年の駿府城の発見に続いての今回の発見だと思うんですけど、この大発見が続いて、さらに今後もその今川氏時代のものとかそういう新たな発見にも期待がかかってくると思うんですけども、大発見が相次いだことに対する受け止めと、あと今後の調査への期待などについて市長のお考えがあればお聞かせください。

【市長】

まず、発掘調査をやってよかったなあというふうに感想をもっています。当初、都市局の駿府城公園の再編計画の中には発掘調査ということが計画されていなかったんです。しかし、徳川家康公の 400 年記念事業を 2015 年に開催をしたことを通じて、市民の皆さんから、どうせだったら 21 世紀に

駿府城を蘇らせたかどうかというような提言をいただくようになって、そのためには、まずは発掘調査をしなければ、千里の道も一歩からということで取り組まなければ進まないなというふうに思って、それまでの再編計画を都市局と観光交流文化局と調整をして、そしてGOを出したということであります。想定以上の発見が相次いだということは、あのとき決断をした結果だろうというふうに思いますし、貴重な文化財でありますので、これも一つ求心力、本物のね。遺構としての求心力として大いに活用していきたい、そんな端緒で担当課の職員もウキウキワクワクしながら、仕事に勤しんでくれているのを大変、私も市長として、あの時の決断は間違っていないと嬉しく思っています。

【共同通信】

ありがとうございます。

【司会】

はい、中日さん、どうぞ。

【中日新聞】

本物の発見が相次いでいるということで、また前も伺ったと思いますが、駿府城の再建に関しては、天守閣の再建に関しては、お気持ちを聞かせてください。

【市長】

これはやっぱり市民の皆さんから期待もあるし、その期待をもとに発掘調査が始まったので、これは一つのビジョンとしては、描いておきたいなと思っています。

【中日新聞】

再建したいというビジョンということでいいですか。

【市長】

(うなづく)

【司会】

いかがでしょうか。はい、ありがとうございました。

次に、幹事社質問はないというふうに、伺っておりますので、各社さんからのご質問をお受けしたいと思います。いかがでしょうか。

はい、日刊工業さん。

【日刊工業】

ライブ配信もですね、始まってから半年というふうには続いてきましたが、率直に手応えというか、どう感じておられるのか。また、今、情報発信力の強化とかですね、PR活動、様々しておられるわけで

すけども、オリンピックまであと約1年ということで、非常にオリンピック、絶好の機会というふうに捉えておられると思うんですけども、具体的取り組みのですね、考え方や具体的に取り組みがあればお聞かせください。

【市長】

はい、大きく2つ質問いただきました。まず一つ目は、情報発信力の強化の一環で、ライブ配信をしました。これによってね、意外な方が「これ見たよ」とか、「なかなか良いこと言っているね」とかいう手応え、これもやってよかったなというふうに思っています。

また、線でね、流れで全体の私の主旨というのが、ライブ配信されるわけなのでね、正確に伝わるといふかな、そういう効果もあるんだなというふうにも思いました。

ただ、なかなかね、これをずっと聴いてくださる市民の方々も少ないですので、やはり記者の皆さんにそのポイントを掴んで、正確な情報を記事にさせていただければうれしいなというふうに思います。で、どうでしょう、なんでしたっけ。

【日刊工業】

約1年後にですね、オリンピックを…

【市長】

はいはい、これはホストタウンとしてね、今まで私たちに縁のあったスペインとか、台湾の競技団体と提携を結んで、ここを合宿地にして、本番に臨んでくれという取り組みをすでに始めております。それによって、静岡市が注目をされたり、交流人口の増加に繋がったりすれば、とても嬉しいことだなあというふうに思っていますので、期待をしています。

【日刊工業】

近年ですね、毎年のように豪雨で、大きな被害が出ているわけですが、地震とかですね、津波に対する意識というのはだいぶ変わってきていると思うんですけども、なかなかですね、雨に対する市民、県民の意識というのがですね、まだまだ十分でないということで、各自治体もですね、被害が出る前に避難ということで、かなりその意識変えと言うんですかね、その取り組みをですね、取り組んでいるということで、静岡市としてですね、市長として、その辺の考え方、また具体的に何か、市民の意識を変えるようなですね、そういう取り組みがありましたら、お聞かせください。

【市長】

はい、どうもありがとうございます。記者のおっしゃるとおりだというふうに思っています。

一番、私が大事にしているのが、情報の共有化であります。

早く、正しく市民のもとに、今どういう災害が迫っているのかということを伝えるということが、一番の肝だろうというふうに思っています。その一環で、前回の記者会見でね、改めて緊急防災ラジオの

頒布を始めるよというように呼びかけをしましたところ、やっぱり市民の方々もやはり情報知りたいというニーズ、すごく強いですね。あの非常に反響があるんです。ラジオ欲しいというようですね、反響があると現場の方から報告をもらっております。

ですので、そこのところを一番留意して、これからの出水シーズン、台風シーズン、無事故であることを下支えしていきたいなと思っています。

【司会】

よろしいですか、はい、ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

【市長】

今日、今からわくわく給食の第1回目が始まり、私も安東小学校で子どもたちと一緒に給食を食べてきます。これもマニフェスト記載の100日プログラムの一つであって、子どもたちが喜んでもらえればいいなと願っておりますが、情報発信が大事であります。ぜひお時間あれば、取材をしていただきたいなということをお願いして、記者会見を終わりたいと思いますが、僕が締めちゃまずいか。

【司会】

よろしいですか、はい、読売さん、どうぞ。

【読売新聞】

今、お話にあったラジオですかね、現状としてどれくらい数として出てらしたのか、そのあたりわかれば教えていただければ…

【司会】

わかりました。これは実務的に答えてもらうんです。これからですよ、まだまだ。まだ問い合わせがあるレベルですよ。今日は危機管理課、誰か来ているかな、来てないんだ。じゃ、ちょっとそれは後から広報課を通じて答えますので、申し訳ありません。まだこれからね、広報課できる範囲で、いつだっけ、今、問い合わせがあるレベルであると聞いていますけれども、実際に頒布開始するの。

【司会】

それも含めてまた、読売新聞さんに後ほど、申し訳ありません。

【市長】

それよりも、それよりも言ったらまずいね、それも大事なことですけれども、読売の都内版72万部に情報発信力の強化で、静岡に定住人口、交流人口、大歓迎だという全面記事を、6月29日の土曜日に出させていただけいですね。たいへん反響がありますので、ぜひ後でもう一度お読みいただければ嬉しいなと思います。御社の私の同期の者から提案があって、今回こういう形でプレスリリ

ースしたんですけれどもね、本当にありがとうございました。

【司会】

その件につきましては、また後ほど、私の方から各社さんに配付をさせていただきますので、ご覧くださいませ。

よろしいですか。はい、ありがとうございます。ぜひ引き続きの安東小学校のですね、わくわく給食の方もお願いしたいと思います。

以上で、本日の定例記者会見を終了させていただきます。